

（柳本の様々な魅力を活かし、まちづくりに励む会）

平成9年から10年にかけて、「黒塚古墳竪穴式石室」の調査が行われ、三角縁神獣鏡（邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈られた鏡といわれている）が三十三面も出土し、天理市柳本町が全国的に有名になった。

また、江戸時代には柳本藩といい、織田信長の弟で茶人としても名高い織田有楽斎の末裔が治めていた。町内には、武家屋敷の土塀や当時の町屋が残っている。

このような歴史遺産や古い街並みを活かし「この町に生まれて良かった。住んで良かった。おいでやす、ようきはったな。」と言える町にするために、平成14年5月「柳本もてなしのまちづくり会」が発足した。会員は、主に地元の人が参加していて現在62名となっている。

主な取組み

■「柳灯会」：毎年9月の第三土曜日、日曜日に開催されており、今年で4回目（今年は9月15日、16日）を迎え、黒塚古墳の周り、JR柳本駅から柳本公園の道沿いに約2,800本の灯火を並べる。灯火は、特製の瓶に、柳灯会と書いた和紙を巻いている。コーラス、フルート、オカリナ、大正琴のミニコンサートも開催。周濠の水面が鏡となって黒塚のシルエットが写り、幻想的な雰囲気包まれる。

■「竹炭・花炭作り」：竹が里山に生い茂り、山を荒らすので、竹を伐採して手作りの炭焼き窯で竹炭を作っている。また、かぼちゃ、パイナップル、瓢箪、とうもろこしなどを窯で焼いて花炭を作っている。花炭は消臭剤や空気の清浄化に利用される。

■「黒塚古墳清掃作業」：黒塚古墳を守ることが、この会の原点となっており、毎週日曜日午前8時～10時まで、グループ毎に持ち回りで清掃作業をしている。

■「柳本学研究会」：当会のメンバーが、貴重な歴史遺産を受け継ぎながら、地元のことで知らないことが多いと気づき、昨年12月より始めた。当地の歴史、文化、自然などを子弟に伝えるべき「宝物」を調査し、同会で「柳本百選」を作成している。

■「柳本再発見写真展」：毎年10月、当地の自然や景観、文化、風習など、カメラを通して見た「柳本の魅力」を柳本公民館で、展示している。

当会は、これらの活動を通じて、地元の人たちに「柳本のよさ」を再認識してもらい、他地域の人との交流を増やそうと活発に活動している。

（上田）



黒塚に灯された灯火が、水面にゆらぐ



空気の清浄化などに利用されている花炭

これからの主な催し

〔主な行事〕

●9月17日（月）敬老の日 10:00～

白豪寺 志貴親王御忌

萩の花が最盛期のころに、天智天皇の第七皇子である志貴親王の追慕の献花式と法要を行う。後で、番茶の接待がある。

JR・近鉄奈良駅より市内循環バス約12分

高畑町下車 徒歩20分

問合せ：白豪寺

TEL：0742-26-3392